

<第2回 昔々の成木> 明治時代の頃

江戸時代が終わったあたりの成木はどのようなだったでしょうか。

『成木』の名の始まりは、康暦2年（1380）に 下成木安楽寺所蔵の大般若経奥書に「成木郷」との地名が初めて表記されてからのようです。

明治10年（1877）には、表1のように5村に分かれており、約2600人が住んでいました。

その後、明治22年に（1889）に町村制施行により、5村が合併して神奈川県西多摩郡成木村が成立します。東京府に編入されたのは明治26年、明治30年に東京都になりました。

地域のエピソードとしては、嘉永年間（1850頃）に成木川の水路変更工事があったそうです。

村 名	世帯数（戸）	人口（人）
下成木村下分 （現：成木1丁目）	48	329
下成木村上分 （現：成木2丁目）	47	273
上成木村下分 （現：成木3・4・5丁目）	158	862
上成木村上分 （現：成木6・7丁目）	105	666
北小曾木村 （現：成木8丁目）	75	488
合 計	433	2618

表1

青梅市自治会連合 HP より

場所は成木小入口交差点の下（田んぼの一带）の「中河原」です。

監修をさせていただいている地域講師の若林さんのお話では、川が湾曲しているため、度々洪水のように水浸しになっていたそうで、上成木村の人々が20年もの歳月をかけて川を真っ直ぐに変えました。「しんかわ」には大きな石があり、削り取るのに大変だったそうで、その場所は「普請場→しんば」として今も呼ばれているそうです。（図1）

「アマガサスの森」の名前を聞いたことがあるかと思いますが、成木小学校のあたりは、「天ヶ指」と言い、焼き畑農業をしていた場所を「〇〇さす」と言うそうです。

昔の地名が今も残り、今でも使われていることに驚かされます。他にも成木地区には独特の地名があり、「せき（木材を運ぶために川を堰き止めた場所や水車があったところ）」などもあるそうですから、今後調べて行きたいと思います。

安楽寺通りは川に沿った道だったんですね。びっくりです。

【出典】『成木学校百年のあゆみ』1981

『青梅市史』1995

『青梅市文化財ニュース』2020

青梅市自治会連合委 HP

【監修】地域講師 若林 博司

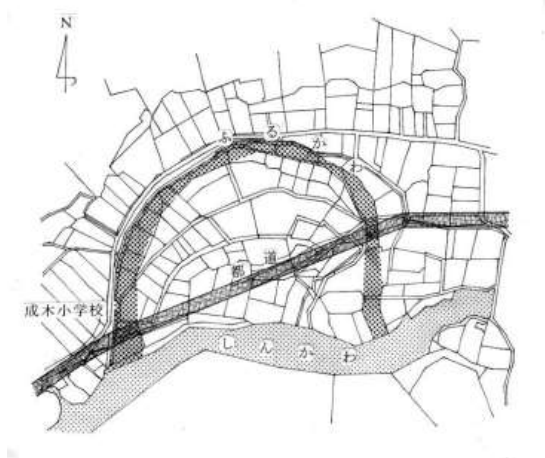


図1

出典：青梅市文化財ニュース 第389号

2020